

令和4年第11回定例公安委員会会議録

開催日時 令和4年4月14日(木) 午前11時10分～午後2時45分

開催場所 警察本部

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時5分

2 出席者

公安委員会 勝部委員長 久本委員 衣笠委員

警察本部 服部警察本部長 雲田警務部長 笠田首席監察官
前田生活安全部長 河本刑事部長 柴田交通部長
加藤警備部長 植木警察学校長 見垣情報通信部長
水谷警務部参事官

(事務局等～畔田公安委員会補佐室長、辻室長補佐)

3 議題事項

4 報告事項

- 鳥取県議会令和4年2月定例会の結果(警務部)
- 警察本部長に対する苦情の受理状況(令和4年1月～3月中)(警務部)
- 子どもの歩行中の交通事故に関する分析結果(交通部)
- 5月中の入校及び訓練概況等(警察学校)

(1) 鳥取県議会令和4年2月定例会の結果(警務部)

警察本部

令和4年2月定例会は、3月24日に閉会した。

警察関係の議案は6件可決され、議会の委任による専決処分については、損害賠償に係る和解及び損害賠償の額の決定について報告した。

代表質問は、県議会自由民主党及び会派民主からあった。県議会自由民主党の

藤縄喜和議員から、「高齢者の交通事故防止対策」について質問があり、本部長からは、「高齢者が当事者となる交通事故が高水準で推移し、加齢に伴う身体機能や認知機能の低下による交通事故の発生が懸念される。本年5月から、75歳以上で一定の違反歴のある運転者に対する免許更新時の運転技能検査制度等の新たな制度が始まるが、県警察では新たな制度の周知を図るとともに、高齢者の心情に配慮した丁寧、適切な対応に努め、高齢者による交通事故の抑止に資するよう社会環境の変化に柔軟に対応しつつ、高齢者対策に取り組んでいく。」旨を答弁した。会派民主の尾崎薫議員から、「男性の性暴力被害者への支援」について質問があり、本部長は、「警察は被害者が最初に相談される公的機関となることも多く、被害を受けた男性の心情に配慮した対応をすることが重要である。性暴力被害者に対する県警察の支援として、医療機関等への付添い、医療費等の公費支出、『性暴力被害者支援センターとっとり』等との連携により、きめ細かな支援を推進している。」旨を答弁した。

一般質問は、会派民主の坂野経三郎議員、県議会自由民主党の内田隆嗣議員及び会派民主の西村弥子議員から質問があった。坂野議員からは、「遭難発生時の救助方法、平素の訓練」、内田議員からは、「小学生に係る交通死亡事故抑止対策の取組状況」、西村議員からは、「歩行者支援装置のスムーズな利用に向けた取組」について質問があり、それぞれ本部長が答弁した。

常任委員会の報告事項は、3件行った。

委員

鳥取県は高齢化率が高いので、交通安全施策は他県の手本となるような取組がなされており、議会においても丁寧な対応をしていただいている。

委員

議会を通じて様々な警察活動の取組が県民に周知されており、適切に対応していただいている。

委員

交通事故抑止、遭難事故対策等、引き続きしっかり考えていかななくてはならないことであるので、県民にわかる形で伝えていただきたい。

(2) 警察本部長に対する苦情の受理状況（令和4年1月～3月中）（警務部）

警察本部

本年1月から3月までの苦情の受理件数は2件であり、そのうち指摘事実があるものは1件であった。同様のことがないように、指摘事実があった点について指導を実施済みであり、同種事案の再発防止に向け、指導教養を徹底している。今後も県民の期待にこたえる活動の推進に努めていく。

委員

指摘事実があったことについては、今後業務改善に繋げていただきたい。

委員

基本に忠実に、職務に当たっていただきたい。

委員

単独での職務執行だと、苦情に繋がりがやすいのではないかと思う。

警察本部

通常は複数で職務に当たるが、どうしても一時的に単独となる場合がある。単独でも落ち着いて対処できるよう、引き続き指導を行っていく。

委員

しっかり指導をお願いします。

(3) 子どもの歩行中の交通事故に関する分析結果（交通部）

警察本部

歩行中の死傷者数の推移について、平成26年は、歩行中死者数16人、歩行中死傷者数148人で、過去10年間で最多となった。令和2年は、歩行中死者数2人、歩行中死傷者数85人で過去10年間で最少となった。全死者に占める歩行中死者の割合は増減を繰り返しているが、令和3年中の歩行中死者数は9人で、前年から7人増加した。令和3年中の歩行中負傷者については103人で、前年から18人増加し、全負傷者数の14.8%と過去10年間で最も高くなった。

子どもの歩行中の交通事故発生状況について、過去10年間で169人の子どもが歩行中に死傷し、特に幼児から小学3年生で121人が死傷した。男女別死傷者数は、男児106人で、女児の1.7倍である。月別死傷者数は、4月から6月及び10月から12月にかけて増加しており、特に幼児から小学3年生までその傾向が顕著となっている。時間別死傷者数は、下校時間帯の16時から18時台に集中している。自宅からの距離別死傷者数は、500メートル以下の比較的近距離な場所において多発し、特に幼児や低学年になるほどその傾向が顕著となっている。

今後、交通安全講習、歩行環境シミュレーター「わた郎君」等を活用した交通安全教育、反射材用品の普及啓発活動の推進、横断歩行者等妨害等違反に対する交通指導取締りの強化により、子どもの交通事故防止対策を推進していく。

委員

特に小学校低学年の子どもは、思いもよらない行動をする。
日本の将来を担う子どもを守る手立てをしっかりと講じていただきたい。

委員

子どもの飛び出しは全く予想がつかない。
特に住宅街やスクールゾーンでの交通安全対策の強化をお願いする。

委員

薄暮時が危険な時間帯でありドライバーも注意が必要だと思う。
特に帰宅時間帯となる夕方のパトロールをお願いしたい。

(4) 5月中の入校及び訓練概況等（警察学校）

警察本部

5月中の入校関係は、初任科第95期及び第96期の採用時教養を行うほか、5月10日から初任補習科第42期20人が入校予定である。専科は、3つの専科が入校予定である。

5月中の訓練は、初任科生の無線講習、拳銃貸与式を予定している。

4月中は、初任科第95期、第96期及び警察行政職員等初任科第32期の入校式を行った。入校生46名うち20名（43.4%）が女性である。

また、4月中は、初任科生の特別生活指導期間中としており、4月10日に久松山等登山を実施、4月16日に10キロマラソン、4月23日は35キロ競歩、4月27日に警察行政職員等初任科第32期の卒業式を予定している。

委員

入校者の43.4%が女性ということで、改めて女性の採用が増えたと感じる。
心身ともに鍛錬し、警察職員としての意識を高めていただきたい。

委員

警察官については拳銃貸与式があるので、拳銃を持つ意味を考えなければならない。

警察官、警察行政職員とも、心技体をしっかり鍛錬してもらいたい。

委員

採用後最初の1か月が特に重要だと思う。
規範意識、モラルを高めると同時に、温かみのある職員に育成してもらいたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取2件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 聴聞

運転免許課から、道路交通法に基づく聴聞3件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

3 報告事項

- ・ 審査請求の受理
- ・ 全国公安委員会連絡会議関係
- ・ 中国四国管区内公安委員会連絡会議関係
- ・ 県下警察署長会議関係
- ・ 犯罪被害者等給付金支給裁定申請書の受理
- ・ 改正道路交通法の施行に伴う各種公安委員会規程の整備

4 決裁

特定抗争指定暴力団等の指定に係る官報公示の一部変更

5 公安委員会委員間の事前検討・協議等

6 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。